

公開質問状回答

1 「要望書」について

2月22日、有権者の過半数をこえる反対署名を添えて、町に要望書を提出し、ボートピア設置計画の中止と、施行自治体も決まらない中で、俤グットワンとなぜ急いで同意書をか
わす必要があったかを明らかにするよう求めました。それに対し、今日まで、なんら返答が
ないことに抗議すると共に、今回の議会で明らかにされることを強く求めます。

(回答) 「広報つばた」11月号でも「(仮称) ボートピア津幡」設置計画について、町長として
の所見を述べさせていただきましたが、現在の津幡町の財政状況は少子高齢等の進行に起
因する福祉、保健、医療、介護、さらに生涯学習等の行政需要の増大により、今後も歳出
の増加が避けられない見込みであります。一方、町税収入の伸び悩みや国が進める三位一
体改革の影響による歳入の減も著しく、本町としては、持続可能な行財政運営を目指し、
行財政改革の一層の推進を図るなど、可能な限りの歳出節減と財源確保に努めているところ
であります。

さらに今後は、町の活力を維持し発展させていくために、新たな財源確保を図っていく
ことが最大かつ最優先の課題となっているところであります。今回のボートピア計画は、
本町における新たな財源確保の手段の一つであるとともに、町内企業の活用や新たな雇
用の確保など、町にとって一定の経済波及効果があるものと考えております。しかしながら、
ボートピア施設については、種々の懸念事項から無用な施設であるとの反対意見もあり、
町としても本設置計画についてさまざまな角度から慎重に調査検討を重ねた結果、いずれ
の懸念事項も適切な対策を図ることによって、解消もしくは直接生活に影響を及ぼさない
ようにすることが可能である確信を得、施設会社に対し、ボートピア建設計画に反対され
ている町民の皆様がご懸念されている青少年、防犯、交通安全、さらに環境保全等につ
いて、いずれも万全な対策を講ずる旨を同意の条件として提示いたしました。その条件につ
いて、誠意を持って受け入れることを確約していただいたことから、今年1月、正式に同
意を行ったものであります。

2 「住みよいまちづくり町民集会」シンポジウムについて

3月4日に開かれた「住みよいまちづくり」シンポジウムについて、以下、抗議すると
共に、質問事項への速やかな回答を求めます。

① 加賀屋会長の小田氏の不適切発言について

パネラーの一人である小田氏は、町の人を呼ぶ観光の目玉として、「堺屋太一さんの言葉」
として引用（実際は、観光プロデューサーであるアラン・フォーバス氏が堺屋太一氏に語
った言葉として知られている）し、観光、歴史、物語性、その次に「ガール アンド ギ
ャンブル」をあげ、しかも、小田氏は「美女とギャンブル」と言い換えられました。これ

は、時折しも、町に計画されているポートピアに過半数の反対署名が寄せられ、それをもってこの3月議会に計画中止を求めて多数の請願が提出されている時期です。津幡町民は、「住みよい街作りのために、ポートピアはいらない」という願いのもと、今回の3月議会の審議を注目しています。講師が勝手に発言したことでは済まされません。意図的な講師選択と発言かと憶測されるのですが、そうでないとしても、このシンポジウムが「住みよいまちづくり」をテーマにする以上、町の財政を使って開くシンポジウムのパネラーとしてはあまりにも不適切であり、そんな軽薄な発言をする講師を招いた町の責任は大きいと言わざるを得ません。業界紙によるランク付けでは全国一位を誇る加賀屋の会長ともあろう方が、このような感覚をお持ちとは驚きましたし、私たちの加賀屋に対するイメージは一変しました。しかしながら、一企業がどういう経営理念をお持ちかはここでは問題ではありません。問いたいのは、このような発言をされる方を講師に招く町感覚です。

「美女とギャンプル」という発言は、公共の場では著しく不適切な発言に聞こえました。講師の小田氏は、どのような意味でこの言葉を発言され、村町長はこれに対してどう思われたのか、説明を求めます。また、このシンポジウムにかかった全経費の詳細を公表するよう求めます。

(回答)

今回の「まちづくりシンポジウム」開催に至った経緯につきましては、シンポジウム内でコーディネーターから説明させていただいたとおり、小田禎彦氏に津幡町政策アドバイザーを委嘱させていただいたのが平成17年10月26日と、舟橋区より津幡町議会へポートピア誘致の請願が提出された平成18年5月23日の半年以上前のことであり、貴委員会世話人の皆様が憶測されているようなポートピアについて意図したシンポジストの選任はありません。

また、意図的な発言かと憶測されとのことですが、政策アドバイザーとは、「町長の諮問に応じ、町の諸施策について提言を行うもの」とされており、町から意図的にご意見、ご発言をお願いすることは、津幡町政策アドバイザー制度の本旨に合わないことであり、そのようなことは一切ございません。

「(仮称) ポートピア津幡」設置計画については、津幡町長として、町議会において採択された舟橋区からの請願に基づき調査検討し、総合的な見地に立脚した判断を既に町民の皆様に示しており、700人委員会の皆様が憶測されているようなことを意図することも、また意図する必要のないことも申し添えさせていただきます。

「シンポジウム」とは、通常、テーマに対してシンポジストから自由に発言をいただくもので、様々なご意見・ご提案があつてこそよりよいものが生まれるものと理解しております。

今回のシンポジストのお一人である小田禎彦氏から「美女とギャンプル」という発言があったことについて、公共の場では著しく不適切というご意見につきましては、皆様が多分に職業差別的な意識を持たれているのではないかという疑念を禁じえません。た

だ、シンポジスト個人の意見として「美女とギャンブル」だけを述べた場合、皆様が言っているように公共の場では不適切とを感じる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、皆様が公開質問状でも言われているように、津幡町への集客の参考になればと、堺屋太一氏の経験を、歴史、物語性など他の集客条件の例とともに引用されたことについては、「不適切」で「軽薄」なものであるとは考えておりませんし、シンポジウムの趣旨や常識的に見ても到底考えられるものではありません。

ご存知のように、小田禎彦氏は、「榊賀屋」を「プロが選ぶ日本のホテル・旅館百選」で27年間連続日本一に導かれただけでなく、和倉温泉はもちろん、七尾市、能登地区、ひいては石川県の発展のために、長年にわたりご尽力されてきた方です。また近年は、国土交通省の「外客誘致と広域観光のカリスマ」として、日本全国の集客に悩む観光地のために、私を捨ててご活動されています。そのような方が他の有識者の言葉を引用されたことについて、ご自分たちのお考え、ご意見だけを主張する形で「不適切」で「軽薄」と決め付ける皆様に、さらにはご主張そのものに、不信の念を抱かざるをえません。

津幡町としては、公開質問状という公にされる文書に小田氏個人の名誉を著しく毀損するような記述があったことについて強く遺憾の意を示すとともに、小田氏に津幡町政策アドバイザーを委嘱させていただいたことについて、また、今回の住みよいまちづくりシンポジウムに参加していただいたことについては、津幡町の今後を見据える上で、非常に有意義で光栄なことであったと考えております。当該シンポジウムのアンケート回収結果においても、回収した274件のうち、「よい」が142件、「普通」が81件、「期待はずれ」が22件、未回答が29件と、50%以上が「よい」とし、80%以上が「普通」以上と評価されております。

まちづくりシンポジウム開催に係る経費につきましては、お手数ですが、津幡町情報公開条例に基づき改めてご申請されるようお願いいたします。別添させていただいた「津幡町情報公開条例」「津幡町情報公開条例施行規則」「津幡町情報公開審査会規則」「津幡町個人情報保護条例」「津幡町個人情報保護条例施行規則」をご参照ください。

② プログラムと進行の責任について

シンポジウムなどでは議論が白熱して、時間通りに進まないことはよくあることです。しかしながら、当日は、「住みよいまちづくり」のために、丘陵公園整備のことや、町の街づくりへの理念について深く関心を寄せている人たちが、たくさん参加していました。シンポジウムという形式で、しかも町民の最も関心ある話題では、フロアからの発言時間は絶対に必要だったと確信しますし、今回の不適切な進行の仕方は、企画した担当者の責任が問われる問題だと思います。プログラムにあった「津幡丘陵公園整備計画」に関する話は一切なく、また、削除された説明、謝罪も全くありませんでした。このような企画を担当された方、司会進行に携わった方々の責任をどのように考えているか明らかにされたい。

(回答)

シンポジウムのすべてのプログラムを消化できなかったこと、また、テーマとして

予定していた「津幡丘陵公園整備計画」が削除された説明、謝罪がなかったことにつきましては、今後の津幡町のあるべき姿について真剣に考え、このシンポジウムに参加された町民の皆様には大変申し訳なく、心からお詫び申し上げます。シンポジウム終了後すぐに、担当者には口頭で厳しく注意させていただきましたが、その責任につきましては、皆様が公開質問状でも言われているように、シンポジウムなどが時間どおりに進行しないことは多々あり、また、当日の大幅な時間超過も町民の皆様にはわかりやすく話していただくようシンポジストの方々に依頼した結果でもあり、担当者に負わせることはできないと考えております。

また、会場からの発言時間につきましては、シンポジウム内でも説明させていただいたとおり、第5回津幡町政策アドバイザー会議として、過去の会議の内容を町民の皆様には公開することを目的に開催させていただいたこと、また、予定時間を大幅に超過していたことなどをご理解され、ご了承いただければと存じます。

なお、予定時間オーバーが「①加賀屋会長の小田氏の不適切発言について」同様、意図されたものであると憶測されているようであれば、進行用タイムテーブル、スクリーン映像のデータなどを公開いたしますので、お手数ですが、津幡町情報公開条例に基づき改めてご申請されるようお願いいたします。

③ 政策アドバイザー会議について

平成17年10月に委嘱されてから、5回目の会議とのことでしたが、津幡町における政策アドバイザーはどのように位置付けられているのか、またこれまでの会議の議事録、及び費用について公開されたい。また、会議の中で、ポートピア誘致について討議されたのか否か、討議されていないのであれば、政策アドバイザーの見識ある意見を、今後求めることを予定しているかどうかお尋ねいたします。

(回答)

津幡町政策アドバイザーは、「社会経済情勢の激しい変化に即応した町政の実現を図るため」に設置されたもので、「町長の諮問に応じ、町の諸施策について提言を行うもの」とされています。また、津幡町アシスタントアドバイザーは、「政策アドバイザーの活動支援や提言の取りまとめを行う」とされております。別添させていただいた「津幡町政策アドバイザー設置規程」もご参照ください。

これまでに開催された津幡町政策アドバイザー会議の議事録及び経費につきましては、まちづくりシンポジウム開催に係る経費同様、お手数ですが、津幡町情報公開条例に基づき改めてご申請されるようお願いいたします。